

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

7月&8月

# 福玉便り

2021年7月1日発行

ふ く た ま だ よ り

通巻 第91号

発行:『福玉便り』編集委員会 NPO法人埼玉広域避難者支援センター・(一社)埼玉県労働者福祉協議会

協力:生活協同組合コープみらい埼玉県本部

連絡先:NPO法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-4-21 ときわ会館1F TEL0120-60-7722



## 相馬野馬追「武者行列」観覧ツアー

7月24日(土) - 25日(日)

福島県復興支援員埼玉事務所では、避難者の皆さんから要望の多い「相馬野馬追」観戦ツアーを企画しました。

当初は「甲冑競馬」や「神旗争奪戦」が観覧できる雲雀ヶ丘会場での観覧を予定しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため本会場への入場が難しいため、武者行列の観覧としました。

皆様のご参加をお願いします。

- 日時 2021年7月24日(土) ~ 25日(日) 1泊2日のバスツアー
- バス発着地 川越市(7時30分)・さいたま新都心(8時30分)
- 宿泊 いわき市内を予定
- 参加費 15000円(バス代、宿泊費、交流会参加費、視察費用)
- 参加条件 新型コロナワクチンを1回以上接種されていることを参加条件とします。
- ツアーの特徴 このツアーでは相馬野馬追を身近に観覧いただくとともに、初日には双葉の東日本大震災伝承館の視察、福島市でのフルーツ狩りも行います。
- お申込み埼玉労福協(電話 048-833-8731)



## 埼玉労福協主催「3.11を忘れない埼玉集会2021」

今年の3月11日は2011年の東日本大震災から丸10年という忘れられない日でした。埼玉労福協(一般社団法人埼玉県労働者福祉協議会)は、2018年から3000人を超す被災3県からの「避難者」を励まし、「風化防止」のために「3.11を忘れない埼玉集会」を開催してきました。

本年は「新型コロナ感染防止」のため、やむなく集会を延期してきましたが、下記の内容で「3.11を忘れない埼玉集会2021」集会を開催します。集会では、「今後避難者の皆さんとどう向き合うのか」、また「埼玉県民としてどのように共に暮らすのか」、「今、どのような支援が必要なのか」について改めて考えます。

そして、「福島県の復興・再生のあゆみ」や「東日本大震災による避難者の現状」を共有するとともに、避難者の皆さんに「私たちは支援し続けます」というメッセージを発信します。

今7月10日(土)の「3.11を忘れない埼玉集会2021」は「感染拡大防止」のため、検温やアルコール消毒、ソーシャルディスタンスによる人数制限を実施しますので、参加者の皆様にはご迷惑をお掛けしますが皆様の参加をお願いします。

- 日時 2021年7月10日(土) 13:30~16:30(開場:13時00分)
- 会場 ときわ会館5階大ホール
- 内容 (1) 講演:「ふくしまの現在復興・再生のあゆみ」講師:郡正彦氏:福島県企画調整部避難地域復興局避難者支援課副主査  
(2) 箏の演奏:箏男(kotomen) 大川義秋氏  
(3) 事例報告  
① 福島県復興支援員事業・富岡町県外避難者支援事業報告  
② ワーカーズコープ「そらまめ」事業報告
- 集会規模 120名(新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては変更もあります)。
- お申込み埼玉労福協(電話 048-833-8731) 迄電話またはFAXでお申込み下さい。

## ご家族の「ひきこもり」 抱え込まずにまずはご相談ください。

内閣府が平成30年度に行った「生活状況に関する調査」では、中高年のひきこもり数が61万人にも及び、その中でも4分の3が男性という結果となっています。この調査は満40歳から64歳を対象とした調査で、自室からほとんど出ない、自室からは出るが家から出ない、近所のコンビニなどにはでかける、趣味の用事の時だけ外出するという状態が6ヶ月以上続いているケースを広い意味でのひきこもりと定義しています。

理由は「退職、職を失った」が最も多く「人間関係」、「病気」が続いています。そして、ひきこもり状態にある中で4割以上の方が悩み事などを「誰にも相談しない」、「昼夜逆転の生活をしている割合が高くなっている」と回答しています。

東日本大震災、原発事故から10年が経過し、避難生活が長期化する中でのコロナ渦によってひきこもり状態がますます増えているようです。このような状況の中で、実は最近、夫が、息子が、父親が自宅にひきこもっている、というご相談が増えてきており、社会福祉士、臨床心理士、精神保健福祉士などの専門家をはじめ地域の行政窓口と連携しながらサポートに取り組んでいます。

ご家族にこのような状態の方がいらっしゃる場合、ご家族はご心配なことでしょう。心配事を抱え込まずに専門家、専門機関に助けを求めていただければと思います。適切な専門家におつなぎさせていただきますので、まずはお電話でご相談ください。

震災支援ネットワーク埼玉 事務局 愛甲 090-8879-0213

## ふくしまと繋がる・福島とつなげるプロジェクト2021がスタートしました！

埼玉労福協は令和3年度福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金事業に「ふくしまと繋がる・福島とつなげるプロジェクト2021（略称「ふくつな2021」）」を申請していましたが6月1日付けで採択され、今年度事業が始まりました。

「ふくつな2021」は、

- ①埼玉県内の避難者に寄り添い「必要（ご希望）があれば月1回程度の訪問」を行います。
- ②埼玉県内で実施される「農園を使った避難者の交流、避難者と避難先住民との交流」を支援します。
- ③避難者交流会として、好評のボウリング大会を2回開催します。
- ④さまざまな事情により「避難元に一時帰還される方」の無料送迎、行政手続き等のサポートを行います。（※同行者はワクチン接種を終わった支援員が行います。）

お問い合わせ、お申込みは埼玉労福協（電話048-833-8731）までお願いします。

### 【福島原発事故責任追及訴訟 結審】

いよいよ結審です！各当事者が意見陳述をするため、2時間以上を予定しています。マスク着用のうえ、ぜひ傍聴にご参加下さい。

日付：9月22日（水）14:00開廷 傍聴：開廷時間の30分前に傍聴整理券配布が締め切られます。それより前にさいたま地裁B棟前にお集まりください。

法廷：さいたま地裁 報告集会：閉廷後に埼玉総合法律事務所 3F 会議室

交通：法廷・報告集会ともにJR浦和駅西口より徒歩約10～15分

詳細：<http://fukusaishien.com/> 問合せ：048-960-0591（みさと法律事務所）

# 震災後の故郷を小説で描くこと

小高出身の小説家・志賀泉さんが、東日本大震災後の故郷を舞台にした新作『百年の孤舟』を出版されました。そこで、上尾シラコバト団地・東日本大震災に咲く会ひまわりの橘さん（浪江町）に、メールでインタビューをしていただきました。

大きかったです。橘 志賀さんにとって小高町とは？また、どう向き合ってきましたか？

浪江町や双葉町を舞台に短編を書いています。母校である双葉高校（休校中）が2023年に百周年を迎えるので、それまでに双葉高校にまつわる短編集を一冊仕上げたいです。

志賀 復興と文学について特に意識してはいませんが、避難・被災の当事者の方が読まれて共感していただけるもの、最終的には救いに繋がるものを書きたいと考えています。

志賀 私の実家は米屋だったので、子供の頃はよく母の運転する軽トラに乗って、小高町の海辺から山里まで走っていました。その思い出が強いかな。小説家になるまでは自分を許せない感情があって、自分を嫌うように故郷を憎んできた気がします。愛着が持てるようになったのは小説家になってからです。自分を憎むように小高を憎み、自分を愛するように小高を愛してきました。今は、手作りの復興に尽くす地元の人々を誇りに思っています。

『百年の孤舟』は限られた特約店でしか扱っておりません。版元の荒蝦夷（022-298-8455）に注文するか、オンライン書店「honto」でご購入ください。サイン本ご希望の方はメールで志賀泉さんまで。（sigahina@outlook.jp）

橘 まず、志賀さんは震災発生からどういう活動をして来ましたか？また何を考えていましたか？

橘 『百年の孤舟』全体を通して伝えたいこと



橘 『百年の孤舟』全体を通して伝えたいこと

志賀 人生の理不尽さと、普通の人々が懸命に生きる姿の美しさです。

志賀 最初にしたこと、有志と小高小・中学校の同級生の安否と所在確認をし、名簿を作成して連絡がとれるようにしたことでした。次にチェロ奏者と福島県内の避難所等をめぐり、慰安コンサートをしました。記録映画の製作や上映会を催し、被災地の現状を伝える活動もしてきました。政治性を外して被災地を外部の人にどう伝えるか、暗中模索していました。

志賀 『無情』では、直接の被災者でない自分が被災者一人称で書くことに迷いがあり、被災者の過酷な現実に正面から向き合えませんでした。『百年』ではその迷いがふつきれ、全身全霊を作品に投入できたと思います。『無情』が福島県の読者に受け入れられたことが



志賀 『無情』では、直接の被災者でない自分が被災者一人称で書くことに迷いがあり、被災者の過酷な現実に正面から向き合えませんでした。『百年』ではその迷いがふつきれ、全身全霊を作品に投入できたと思います。『無情』が福島県の読者に受け入れられたことが

志賀 泉 一九六〇年福島県小高町（現・南相馬市小高区）生まれ。小高小学校・中学校、双葉高校卒業。最終学歴は二松學舎大学。二〇〇四年『指の音楽』で太宰治賞受賞。震災を題材にした作品は他に『無情の神が舞い降りる』（筑摩書房）がある。



福玉相談センター：電話 0120-60-7722（フリーダイヤル）

メール：fukushima\_soudan@yahoo.co.jp 相談日：月・水～金（10:00～17:00）

まずは、お気軽にお電話ください。相談員が丁寧に話をうかがいます

月・水～金曜日 10時～17時 ＊祝祭日はお休みです。＊フリーダイヤルですので通話料の心配がありません。

お子さんやお孫さんたちの様子に気になることはありませんか？外出を控える生活が続きますが、体の調子はいかがですか？福祉サービスを利用したいけど、どうしたらよいのかわからないと悩んでおられませんか？福玉相談センターでは、教員、看護師、社会福祉士等の経験を持った相談員が電話をお待ちしています。

橘 被災地の復興に、文学

者に受け入れられたことが

い気持ちが強いです。今は

る。



## 当事者の声を聞く 甲状腺がんを経験した若者の思い

これから自分が話すのは、私一人の意見でありまして、当事者総意というわけではない前提でお聞きください。

そう切り出した林竜平さん(20)は、5月31日、甲状腺がん罹患当事者として



顔と名前を出し、NPO法人3・11甲状腺がん子ども基金主催のオンライン記者会見に立ちました。(カッコ内は筆者補足)

(福島の小児甲状腺がんについて)「過剰診断」と言われることについては、「手術したことが間違いだったのかもしれない」という心理的負担を感じてしまいました。我々は、お医者さんに「受けたほうがいい」と言われて、「受ける」「受けない」

の最終的な判断は我々本人です。それを「過剰診断」や「(がんを)取らなくてよかった」と言われると「お医者さんが嘘をついたのかな」「我々がまちがった判断をしてしまったのかな」というストレスを感じたり、要らない後悔をしたりしてしまう。(「過剰診断だ」という報道ではなく、)当事者に寄り添った発信を工夫していただければと思います。

検査については、一部では規模の縮小、学校集団検査の任意性の担保からみえるその必要性、ということが少しずつ議論にあがってきていますが、それには反対です。よく「10年の節目を迎えて・・・」と言われますが、ただか10年で何がわかるんだと。我々が経験した3・11東日本大震災・原発事故というのはそんなに薄っぺらいものだったのか、という印象をどうしても当事者は受けてしま

います。10年という節目という言葉を使わないで」というわけではないのですが、当事者の声を発信する場を、メディアの皆さんや福島県も、多く設けてくれればと思います。

ご存知の通り、福島県内では、これまで、子どもたちの甲状腺検査を学校で行なってきました。しかし、5月に開かれた「県民健康調査検討委員会」では、甲状腺検査の「同意書」の学校回収をやめ、すでに4月から福島医大に直接同意書を送る方法に切り替えていると発表されています。検査を受けるためには、保護者の一手間(郵送)が必要になります。避難をしている皆さんも、これまで煩雑な手続き、指定病院に向くなど、大変な思いをしながら受けてこられたのではないのでしょうか。

林さんは、いま、福島県内の学校検査が縮小・廃止に向かっていることや、その理由とされている「過剰診断」論に危機感を持っています。早期発見・早期治療が危ぶまれると考えているからです。「(甲状腺検査については)率直に、非常に助かった、救われた」と林さんは話し、担当医からは、「命に別状はないけれど、声帯に近いから、将来声が出せなくなるかもしれない」と言われたと明かします。

「(もし、検査で早期発見されなければ)この場で声を出して発信できなかったかも知れない」「手遅れで、全摘(全摘出)とか、声帯にかかって声が出せない、最悪の場合、は転移して、抗がん剤投与、大規模な手術と考えると、恐ろしい」とも答え、また、学校検査縮小・廃止の流れについては、「率直に、ふざけるな、という気持ち」と語りました。「人権の専門家の方々も含めた幅広い多様性をもった議論をしてほしい」と、林さんは言います。

甲状腺がん罹患当事者が、顔も名前も出し、会見を行ったのは林さんがはじめてでした。「一人でも多くの方の気持ちを変えたり、認識を改めていただいたりするためにも、顔を晒して(会見を)やらせていただいている」と林さんは話します。

勇気ある発信に、ただただ頭がさがります。林さんの思い、幅広い当事者の思いを、福島県も、「廃止」を唱える検討委員会の委員にも、丁寧に聞いてほしいと改めて願っています。

(編集部・吉田)

子ども基金では、福島原発事故以降に甲状腺がんと診断された子どもたちを支援するために療養費給付金事業「手のひらサポート」をはじめ、情報発信、相談事業などを行い、寄付も募っています。ぜひ、ホームページをご覧ください。



## ワクチン接種券、埼玉の避難先に届く？ 接種はできる？

新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいきます。接種するかしないかは、個々の判断になります。避難をされている皆さんに、情報や接種券が届くのか、調べてみました。

厚生労働省のガイドラインでは、「東日本大震災における原子力発電所の事故による災害により住民票のある市町村の区域外に避難する者は、当該市町村で接種を受けることが困難であることから、「その他やむを得ない事情があり住民票所在地外に居住している」として、避難元自治体が発行する「住所地外接種届出済証」を接種時に持参することにより、避難先の自治体においてワクチン接種を受けることができることとする」と書かれています。また、福島県のホームページでは、「東日本大震災における原子力発電所の事故によ

り避難されている方は、住民票を移していない場合でも、特別な手続きを行うことなく、避難先市町村で新型コロナウイルス接種を受けることが可能となりました（避難の届出をしている方に限りです）。と書かれています。実際は、自治体によって違うようです。特に、いわゆる「自主避難」とされる地域では、自治体の対応がバラバラです。

ないで、なんらかの方法で、避難先に接種券を取り寄せる

・「住所地外接種届出済証」を入手する（避難先の自治体で入手できる）  
という二手間が必要となるかもしれません。

今後、状況が改善する可能性もありますが、手続きが必要なことに注意です。

南相馬市では、避難先住所に届き、接種券、予診票、「住所地外接種届出済証」が同封されています。65歳以下は、6月下旬以降、順次発送とのこと。

いわき市も、避難先住所に届きます。6月22日現在、65歳から69歳に関しては、避難されている方に配送が終わっているそうです。「住所地外接種届出済証」も同封されているそうです。

福島市では、避難先住所に接種券が届きますが、「住所地外接種届出済証」は同封されていないとのこと。避難先で、書類を入手する必要があります。

・避難先に接種券が届か  
こういったバラバラな手

続きの中で、ワクチン接種を待っている方にとっては、ご不便だと思えますが、避難先の自治体でも、接種できることになっています。

で、事前に、確認してみてくださいね。

（編集部・吉田）

## 3.11 原発事故、その時現場では… ～知られざる双葉郡消防士の苦闘～

日時：8月29日(日) 14時～  
 入場料：500円  
 会場：ウエスタ川越2階 リハーサル室  
 内容：★講演/双葉郡消防士 渡邊敏行さん  
 ★パワーポイント「福島の今」  
 ★渡邊さんと吉田千重さんの対談

われわれは生きて戻れるのか？ 原発が爆発・暴走するなか、地震・津波被害者の救助や避難誘導、さらには原発構内での給水活動や火災対応にあたった福島県双葉郡消防本部の125名の消防士たち。原発事故ゆえ他県の応援も得られず、不眠不休で続けられた地元消防の活動と葛藤を、消防士たちが初めて語った貴重な体験。

主催：避難者と歩む@川越 後援：ここカフェ@川越  
 連絡先：鈴木直子 070-5080-4494 poporon@gmail.com

オンライン  
 申し込みは  
 こちらから



令和3年度川越市提案型協働事業



著者：吉田千重  
 1977年生まれ 川越市在住  
 出版社を経て、フリーライター。  
 福島第一原発事故後、被害者・避難者の取材サポートを続ける。  
 著書に『ルポ母子避難』（岩波新書）  
 ★日経一読・読者投票促進賞2020大賞  
 ★読者誌本田晴春ノンフィクション賞  
 ★第63回日本ジャーナリスト会議賞（JCI）



緊急事態宣言は沖縄をのぞき解除されましたが、埼玉県内の一部市町村のまん延防止措置区域は続いています。交流会の開催が流動的な状況が続いているため、今号も交流会カレンダーの掲載を見送り、各団体の連絡先と、4団体からいただいたメッセージや交流会情報等を掲載します。ただし、状況に応じて交流会が再開される可能性もあります。詳しくは各交流会の連絡先にお問い合わせください。なお、各交流会に参加される方は、体温測定およびマスク着用の上でご参加いただき、参加中は消毒や換気にご協力ください。

①	加須市	双葉町民によるボランティアカフェ	090-8879-0213(SSN・愛甲さん)
③	加須市	双葉町老人クラブ女性会&さいがい・つながりカフェ	080-5532-7380 (薄井さん)
④	加須市	加須ふれあいセンター	090-1650-2874 (富沢さん)
⑤	加須市	すくすくのおそび広場	090-2411-8598 (戸恒さん)
⑥	加須市	オバトン	090-6526-8560 (藤井さん)
⑧	上尾市	東日本大震災に咲く会ひまわり	080-3091-6215 (橘さん)
⑩	熊谷市	くまがや結の会	090-7661-9236(林崎さん)
⑪	羽生市	羽生つながりカフェ	080-5532-7380 (薄井さん)
⑫	久喜市	お茶っこふるさと会	090-6855-7140 (木幡さん)
⑬	杉戸町	いきがいサロン	0480-31-0055 (すぎと SOHO クラブ小林さん)
⑭	春日部市	春日部つながりカフェ	090-8879-0213(SSN・愛甲さん)
⑮	越谷市	ひだまり広場	080-5006-3310 (河原崎さん)
⑯	越谷市	あゆみの会	090-9425-2001 (石上さん)
⑰	川口市	ひまわりの会	080-5431-0123 (島田さん)
⑲	さいたま市	さいがい・つながりカフェ	080-5532-7380 tunagari.saitama@gmail.com
⑳	新座市	新座つながりカフェ	090-2402-9155 (谷森さん)
㉑	所沢市	青空あおぞら	090-8879-0213(SSN・愛甲さん)
㉒	ふじみ野市	おあがんなんしょ交流会	090-5345-8408 (松舘さん)
㉓	川越市	ここカフェ@川越	070-5080-4494 (鈴木さん)
㉔	さいたま市	玉兎の会	090-6128-1948 (小林さん) <a href="https://gyokutonokai.wixsite.com/2018">https://gyokutonokai.wixsite.com/2018</a>
㉕	毛呂山町	つながり	090-9032-8116 (河井さん)

⑩【くまがや結の会】時節は真夏日の連続の熊谷です。会員相互間ではライン通話にてソーシャルディスタンスで会話を続けてます。7月はコロナワクチン接種月、8月は先祖を敬う月、県股ぎが解除されれば故郷福島の景色見に行ける日、会員一同待ち望んでます。

⑥【オバトン】蔓延防止のなかで4月から食事を再開しました。利用の制限も定員の4割で今回も2部制で再開しました。ただ飲食禁止という事で食事はせず、弁当は持ち帰り、お茶でワクチン接種の事など近況報告をし歓談して頂いています。密を避けるため並行して塗り絵教室も行っています。

7/13(火)・22日(木)・8/26日(木)

10:30~12:30/12:30~14:30 キャッスルきさい

㉓【ここカフェ@川越】7月 感染状況を見ながら交流会の日程決定します。8/29(日) 川越市提案型協働事業「元双葉消防士の苦悩」14:00~ ウェスタ川越・オンライン併用 避難者無料(要申込)

㉔【玉兎の会】8/1(日)14:00~16:00 夏休み自由研究 MY扇を作ってみよう(お子様も参加できます。7/15までに要申込)With Youさいたま4F 視聴覚室8/28(土)・29(日) 14:00~16:00 事前講座 道成寺・木曾与野コミュニティセンター 視聴覚室(いつも場所が違うのでご注意ください)今回は、Youtubeを見ながらのワークショップです。もちろん、家からも参加できます。